

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスももたろう		
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日		令和8年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9
○従業者評価実施期間	令和8年2月9日		令和8年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小規模事業所のため、児童個人に深く関わることができる。 保護者個人との連携は取れているが、更に学校(担任)と情報の共有を図り支援に活かしたい。 ※問題提起事業が起きた時だけでなく、常平生から連携を深めていきたい。	一人ひとりの特性に応じた対応をしている。遊具、玩具含め教材等は特性や興味に応じて揃えている。環境面の美化と衛生管理に配慮し、行き届いた清掃を行っている。子ども自身の整理整頓の自立に向けての指導の支援に繋げている。 児童個人の将来(就労)を見据えての支援をしている。	日々の療育の中で、個人を十分に観察していき、変化に早く気づき、スタッフ間で周知を図り、常に成長や児童自身の自己肯定に繋がるような療育を心がけているが、更にステップアップしていくよう問題点の抽出を怠ることがないように、見落としがないようにしていく心構えを各人でもつようにする。
2	帰宅送迎について、保護者の要望(希望の帰宅時間)に応えられるように、数台の分けての送迎も実施している。	子どもの体調や機嫌の観察を行いながら、送迎の車中も楽しく過ごせるように対応している。気の合う児童と乗り合わせ等、それぞれが話しやすい車中となるよう出来るだけの配慮をしている。	定期的に桃会議(職員、児童オール参加のミーティング)において車中での振る舞いについての話し合い等も実施して思わぬ事故に繋がらないように、ルールの確認をしていく。
3	職員間の繋がりが深く、お互いにカバーし合っって一日がスムーズに過ごせるように個々が心がけている。	支援提供が予定通り進められるように、事前の打ち合わせを密に行うなど準備段階に力を入れている。	当日の連絡帳で送迎時間の変更や伝言が抜けることあり、報告、連絡、相談の徹底は今一度、気を引き締めて取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の高齢化	一桁の年齢の児童とは基だしいにもほどがある年齢のギャップである。 ※実はそれほど問題視はしていない。年齢を重ね、豊かな人生経験も療育支援には向いていることが多い。	ネットを活用して、日々のニュースや流行に敏感でありたいと努力していく。いわゆる昭和の思考をバージョンアップしてハラスメントしかり、様々な事柄に関してひと昔と違う現代の常識を学ぶ姿勢を大切にしていく。 ※R8年2月より保護者世代のスタッフ(パート)雇用。
2	巨大地震発生が現実となった時の恐怖がある。	建物の損壊、津波は免れないだろうから、その時に咄嗟にどう動けるか、不安がある。	大家に掛け合い、耐震診断の結果を受けての補強工事が完了した。とりあえず、一発倒壊の不安は解消した。 毎月の訓練で生き延びるための方策をいろいろ考え出せるように、真剣に防災訓練に取り組み、意義あるものにしていく。
3	弱みと聞かれたらたくさんあると思うが、思いつかないところがすでに問題なのだろう。第三者からの指摘があったら、真摯に受け止めた、ありがたい。		